

あいさつ運動・ボランティア活動を通して主体性のある子を育てる

ねがい

〈目的〉

主体性のある児童生徒を育てるために、共に声をかけ合い、支え合い、高め合える活動を大切にしながら、あいさつ運動やボランティア活動を実施することにしました。

〈内容〉

つながり

● あいさつ運動の実践

小学校では地域との連携のなか、交通安全・地域防災教育を包含した縦割り「地域安全チームSTみなみ」を編制し、リーダー育成と児童会の活性化を図ると共に地域の方々に積極的にあいさつを交わす運動を展開しています。また合唱部が「第1回わいわいがやがや祭り」「太田南フェスティバル」に参加し、積極的に地域との連携を図っています。それを受けて、中学校でも小学校と共に地域行事に吹奏楽部や生徒会役員等が積極的に参加し、地域の活性化や地域との連携につなげています。また、朝のあいさつ運動を生徒専門委員会の委員が正門前で行う等、小学校からの児童会活動を継続した自主的活動につなげています。

● 自分づくり・集団づくりにつなげるボランティア活動の実践

小学校では「プロジェクトM」という名で広報してボランティア活動に取り組みせることで、意欲化を図ると共に自己有用感を持たせるようにしています。また、ボランティア活動の計画づくりのための話し合い活動を通して集団決定力をつけたり、人間関係調整力をつけたりしています。

中学校では小学校で培ったボランティア活動への意欲的な取り組みの姿勢を、更に他者からの要請ではなく、生徒会役員が全校生に呼びかけて毎月「ツヤツヤの日」を設け、朝の時間帯に校内清掃に自主的に取り組むボランティア活動を実施しています。この周囲の環境を整え、他者のために尽くすボランティア精神は、そこに留めることなく、全教育活動を通して人権意識の高揚や自他を尊重する風土づくり等、より高次な人権教育につなげていくようにしています。

生徒の小中共同の活動は実践できていないが、小学校でのボランティア活動の取り組みが、明らかに中学校での取り組みにつなげられるように、継続性に配慮した取り組みを今後も実践していくよう努めています。具体的には、教職員同士の研修会を充実させ、夏季休業日における吉光文化センターや奈良の水平社博物館への現地研修会の実施、特別支援教育に関する現職教育の共同開催等、教師の児童生徒を見る視点の共有化を図り、児童生徒の継続性のある指導に生かすように努めています。

高まり

〈成果〉

通りがかりの地域の人や、学校への訪問者に児童生徒は進んであいさつを行うことができます。また、特設したボランティア活動に限らず、普段の清掃活動にも教師からの指示がなくても自主的、意欲的に取り組んでいます。また、学級内の自分とは異なる考えや性格の友だちを温かく受け入れる人権感覚の高い児童生徒が増えています。